



2019年度セミナー名古屋開催

開催結果報告

名古屋初開催セミナー、現役技術者からの実務直結の期待が大きい

2019年07月19日

一般社団法人 UX設計技術推進協会

本ドキュメント内容

1. 目的
2. 講演概要
3. 参加者概要（担当職種）
4. 提供コンテンツ（講演）に対する満足度
5. 参加者の関心事（協会への関心）
6. セミナー風景
7. 質問及びアンケート
 1. UX設計技術推進協会の活動にどんなことを期待しますか。
 2. 参加者の困り事
 3. セミナー内容が期待外れの理由

目的

昨今UXの重要性が声高に叫ばれている中、誰もが、いつでも、どこからでも製品・システム・サービスを使用するIoT時代だからこそ、**安心で快適なユーザー体験価値を継続的に提供するためのUX設計技術**が必要です。

ユーザー体験価値から製品品質を導き、製品・システム・サービスを具体化して提供するには、

- ユーザーの本質的な要求や解決すべき問題を把握し、ユーザー体験価値を決める（要求と目標値）
- 製品・システム・サービスの要求仕様として定義する
- 発売後のフィードバックを活用し、ユーザー体験の改善を反映する

など、UX設計技術の基本的な考え方についてご紹介し、参加者の皆さまとの意見交換をいたします。

講演概要

「ユーザー体験価値を開発プロセスに定着させるためには」— 最新の国際標準規格を踏まえて考える—

小樽商科大学商学部教授平沢尚毅氏

ユーザー体験価値（以下UX）は、製品開発側だけでなく、情報デザイン、マーケティングの領域でも日常的に利用されることもあり、広く一般に広がっている。一方、UXを製品・システムにどのようにして導入してゆくかは普及されているとは言い難い。また、ユーザビリティ専門家にとって、UXとユーザビリティはどう違うのか、そして、これらを開発ライフサイクルにどのように組み込んでゆくべきかが関心の高い課題である。こういった疑問に応えるために、国際標準ではどのように整理しているかを解説すると共に、UXを設計プロセスに導入するための指針を最新の規格を踏まえて説明する。

「UX設計技術とその効果」

一般社団法人UX設計技術推進協会理事、ナイン・アルファ合同会社代表太田猛氏

IoT/AIが急速に導入される生活環境において、ユーザーが安心・快適に継続して、製品/システム/サービスを利用する実現するひとつの重要な要素として「UX設計技術」があります。設計現場でUX向上に必要な新しい技術をどう加えるかを追求し、現場に適用することを定着させるために、一般社団法人UX設計技術推進協会を設立しました。良いUXの提供を目標としたシステムやサービスを確実に市場に届けて、ビジネスの競争力をあげることに、それらを使ったユーザーが実際に良いUXを獲得して笑顔が増える。そんな社会の実現を目指していきます。今回は、この協会の活動概要を紹介します。

「ハードウェアの現場と繋がる世界のギャップを埋める開発指針」

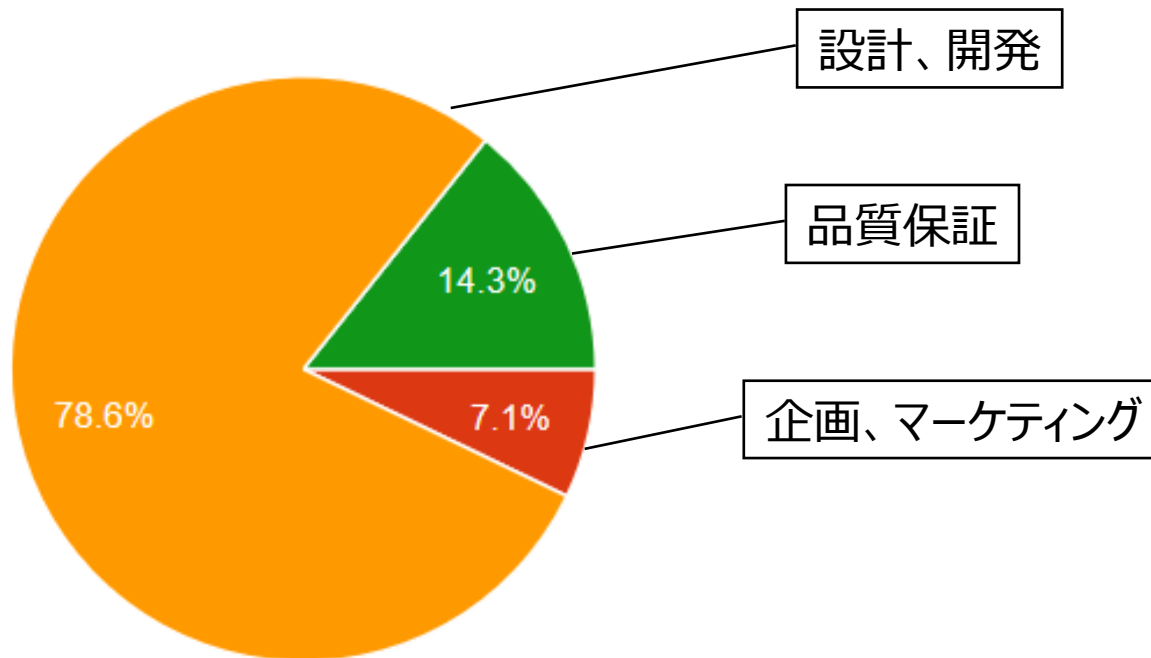
Qrio株式会社IoT開発本部本部長山口隆広氏

Webの人がIoTのサービスを作る上で難しいことは、ハードウェア文化圏とのギャップです。これを解決できないと、期待値に応えられないサービスを生み出してしまったり、品質優先度を誤った不安定なプロダクトを世に生み出してしまったりすることに繋がります。今回は、自分がそのような状況を避けるためにどんな失敗や試行錯誤を行ってきたかをお伝えしていきます。

参加者の担当職種

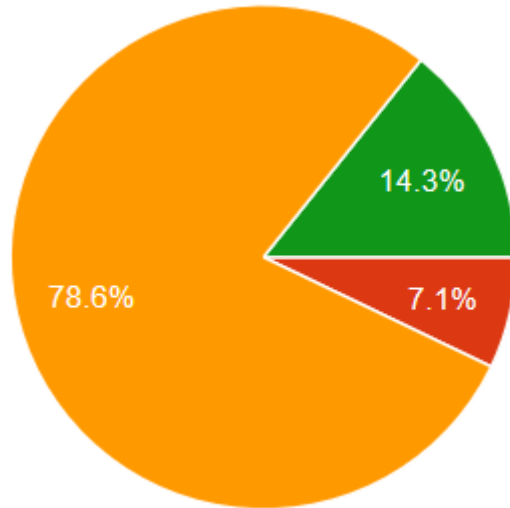
設計、開発のエンジニア中心であった。

- 規格、設計、品質の参加者割合はモノづくりの体制を反映している。
- このモノづくりサイクル側から、UXを取り込むという観点へつなげる機会あったと考える。

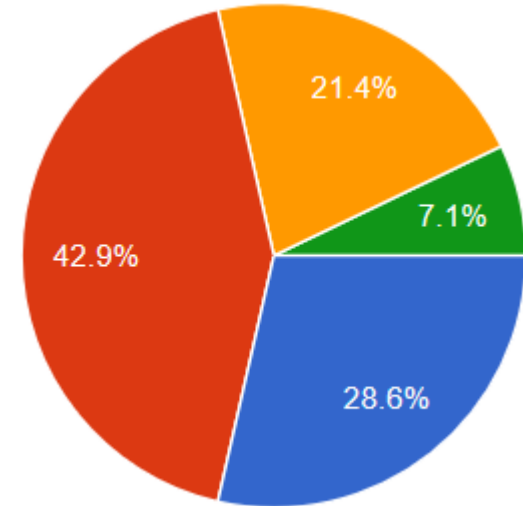


提供コンテンツ（講演）の満足度

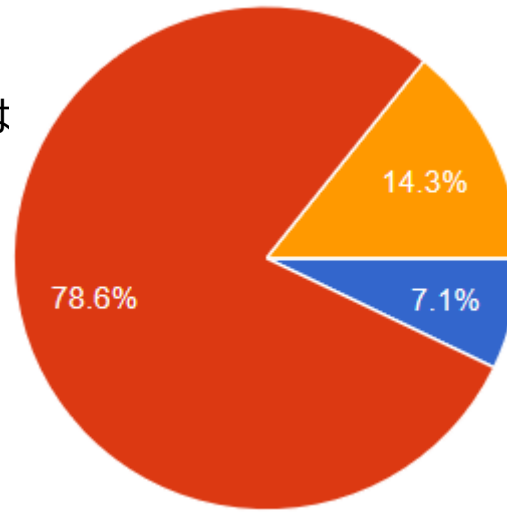
提供したコンテンツは、好感触で受入れて貰えた



ユーザ体験価値を
開発プロセスに定着させるためには



ハードウェアの現場と
繋がる世界のギャップを埋める開発指針



UX設計技術とその効果

- 期待以上だった
- ほぼ期待通りだった
- 期待とは異なったが、満足だった
- 期待はずれだった

どんな点をもっと知りたかったですか。

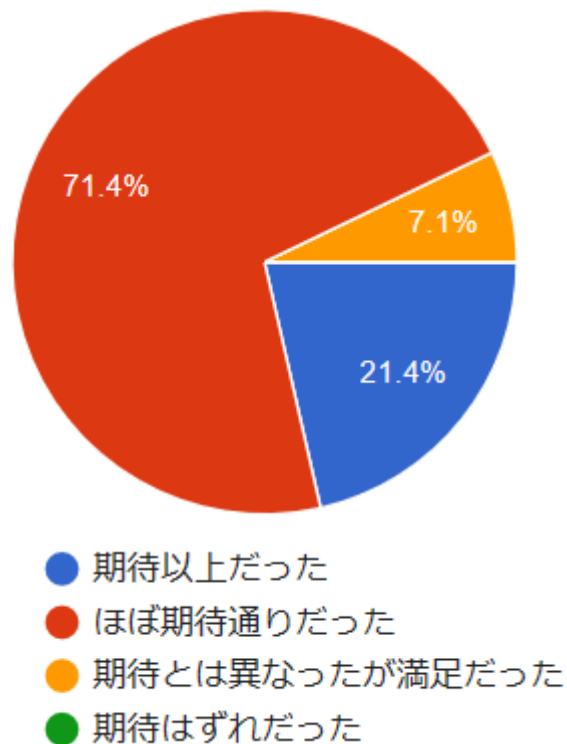
更新情報のタイムリな展開、確立出来てきたノウハウの展開、実際の設計に直結した事例を望まれる声が多いです。協会としても同じ考えですので、要望に応える方向で進めて参ります。

#	ユーザ体験価値を開発プロセスに定着させるためには」 — 最新の国際標準規格を踏まえて考える —
1	また規格の更新情報があれば知りたいです。
2	立案したユーザ体験から、開発プロセスに落とすための、具体的なやり方・事例を教えていただけると嬉しいです。
3	規格や資料についての案内が多かったので、事例などでの具体的な説明も増えると良い。
4	これまでのソフトウェア品質マネジメントの規格とはすくなくとも抵触しないかたちでUXを徐々に進めるためのノウハウはそもそも存在するのか？
5	ユーザ要求定義、UI設計の妥当性を初期の段階で評価するにはどうすればよいか。
#	UX設計技術とその効果
1	実製品や改札機のエピソードが興味深かったので、事例に基づいたエピソードをもっと知りたいです。
2	技術に対するノウハウ部分をもっと知りたかった。
#	ハードウェアの現場と繋がる世界のギャップを埋める開発指針
1	プロジェクトを回す上でのギャップが聞けてためになりました。開発する職業柄か実装で苦労した工夫した話をもっと知りたかったです。スマートロックの解施錠か遅い件のような話です。
2	設計業務を行うだけでは得られなかった、新しい視点が得られました。設計者では見落としがちなポイントが他にもあれば紹介してほしい。
3	ユーザー調査、分析、設計に対する、具体的事例。

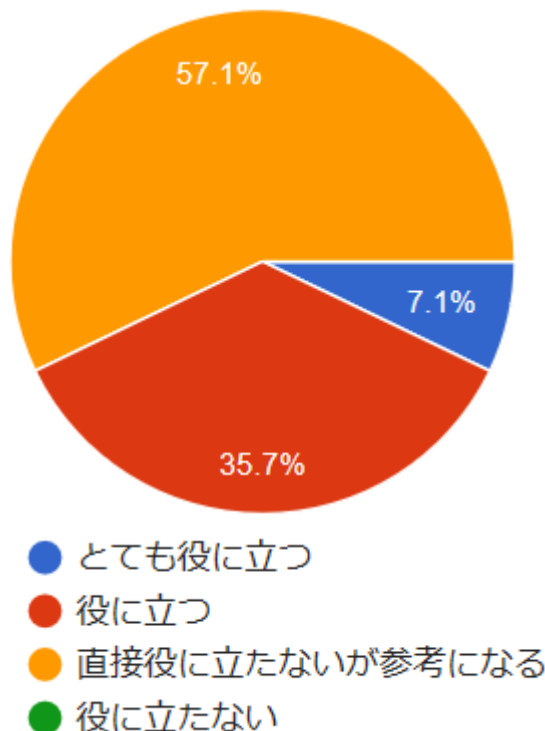
参加者の関心事

UX設計および協会の活動にも強い関心があることを明確になった

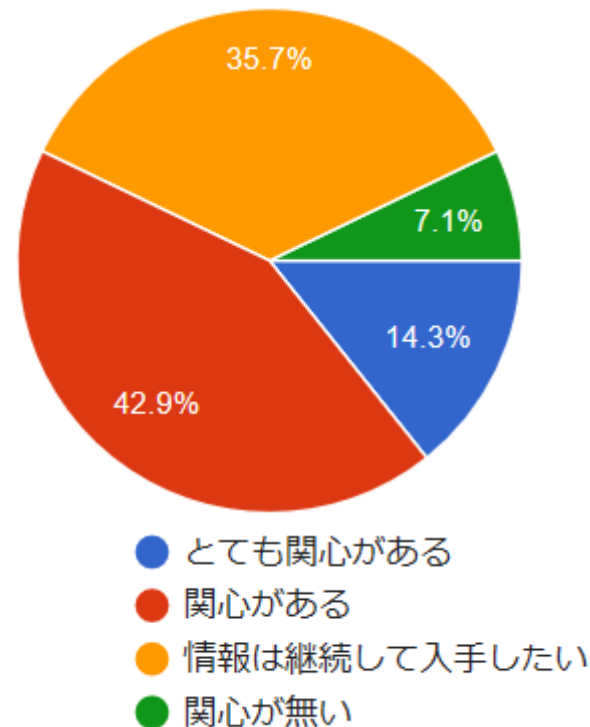
本日のセミナーは満足できるものでしたか



UX設計技術の考え方や方法は
実務で役に立ちそうですか

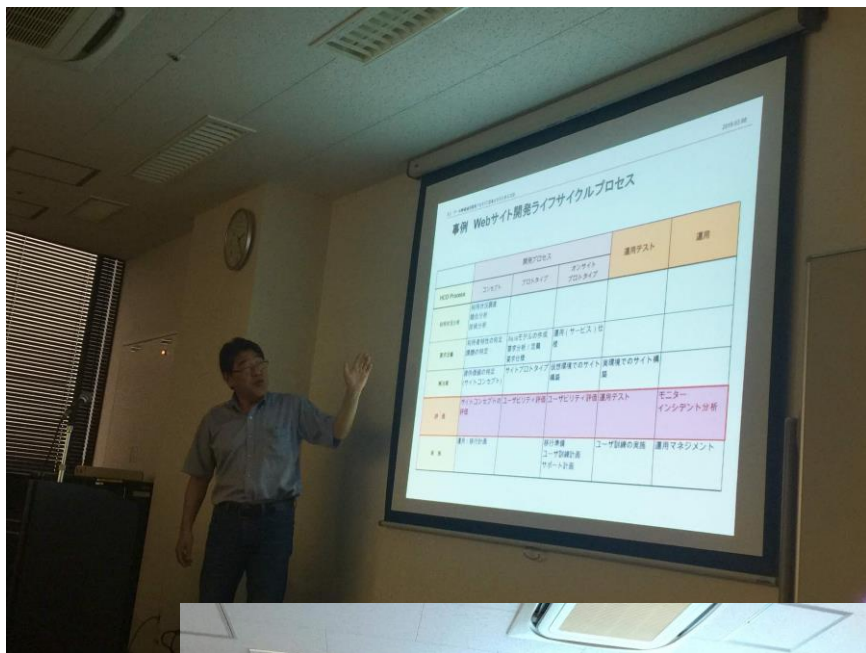


UX設計技術推進協会の活動に
関心がありますか





講演及び質疑応答風景



UX設計技術推進協会の活動にどんなことを期待しますか。

#	参加者の期待	協会の答え
1	勉強会のような学びの場の設定。	
2	UX設計技術推進協会というのを今回初めて知ったので、どういう団体なのかを知りたい。	消費者の安心と快適という視点でUXの向上を設計段階に組み入れる事を検討推進してゆく団体です。 詳細は、(一般社団法人) UX設計技術推進協会 www.uxdq.or.jp をご覧ください。
3	名古屋でワークショップを開催	今後、検討してまいります。
4	実際のUX設計を体験するワークショップなどがあれば参加してみたい。	UXは実際に設計者が中心となって取り組む活動であることを明確にし、専門的役割の関係者で協業することを具体的に体験できるようなワークショップを検討して行こうと思います。
5	世の中のニーズの変化に対し、UXの位置づけや扱いの変化。	変化し続ける部分と不部分が変動的があると思います。 UX（価値・品質）の定量化の推進と、経験や知見を変化するニーズにマッチングさせて展開いたします。
6	IoTをはじめとする、製造業の企業様における、UX受け入れのための壁を如何にして低くしていくかのご協力やノウハウ部分のご提供など。	多くの企業で抱えている共通の課題です。 まだ明確に説明できるような数字はありませんが、実績を蓄積し、会社としての取り組みとなるよう経営層に理解して頂く活動を進めてまいります。

参加者の困り事

#	困り事	協会の答え
1	社内ユーザーが存在するシステムでユーザー検証が十分にできていない。	検証（評価方法）は当協会もポイントと考えております。まず、仕様が使用ユーザを考慮したUXとして十分なレベルまで熟達しているか。設計は仕様通りか。そして、技術品質＝価値＝ユーザ価値 という観点で評価できているかを整理したいと思います。
2	UXを考慮した開発とビジネス上の優位性、技術的な実現性のバランスの取り方が難しいと感じています。 企画前にプロトタイプを使用する開発手法を取り入れていまして、B to Bの分野での顧客価値を利用者に置くのか、あるいは購入者に置くのか、などケースバイケースになりがちな点も多く、社内での理解を求めるのに労力と時間がかかるのもひとつの困りごとです。	はい。そのために会社の取り組みとなるように経営層へ理解して頂く活動を進めて参ります。 UXはユーザ価値であり、結果的にビジネス上のメリットが大きい、という図式をご理解いただきたいと思います。 その上で、製品ごとにどのような開発手法で、どのレベルを狙うのか、が決まってくるのではないかと考えます。
3	今回のようなセミナーを受けるのは開発担当が多い一方で、市場調査は企画部門が主に担っている。 セミナーを受けていない担当でも、有効な市場調査をするためのチェックリストのようなものがあればうれしい。	課題を提供してもらい、参加者で色々な議論を行なうような場を作ることは出来ると思います。 そこで、現状の開発プロセス（役割分担：開発担当と企画担当）の改善を検討できればと思います。

セミナー内容が期待外れの理由

#	困り事	協会の答え
1	設計の話より、UXの概念的な話が多かった印象です。 UX設計のキーワードによるものかと思います。	実績を積みながら、実際の設計の情報を提供できるような活動を推進していきます。 もし、現状の課題等ございましたら提供いただけると助かります。

EOF



一般社団法人 UX 設計技術推進協会
URL: www.uxdq.or.jp